

I 調査結果概要

県内中小企業の経営状況

県内中小企業の景況感は、厳しい状況ではあるが、持ち直しの動きがみられる。

先行きについては、やや慎重さがみられる。

- 経営者の景況感D Iは、▲65.6と、前期比で7.4ポイント増加し、2期連続で改善した。業種別では、製造業は8期ぶりに改善し、非製造業は2期連続で改善した。
- 景況感の先行きD Iは▲38.3と、前回調査比で1.7ポイント増加し、2期連続で改善した。
- 売上げD I、資金繰りD I及び採算D Iは2期連続で改善した。
- 設備投資の実施率は2期連続で増加した。
- 来期については、売上げD I、資金繰りD I及び採算D Iは当期D Iより悪化する見通しである。また、設備投資の実施率については当期実施率より減少する見通しとなっている。

注1) 数値については、小数点第2位を四捨五入して表記しているため、D Iを算出すると±0.1ポイントの範囲で差異が生じることがある。

注2) 「前期」：令和2年7～9月期、「当期」：令和2年10～12月期、「来期(先行き)」：令和3年1～3月期

1 経営者の景況感と来期の見通しについて

自社業界の景況感D Iは▲65.6となり、2期連続で改善した。前期比で7.4ポイント増加し、前年同期比では23.0ポイント減少した。

業種別にみると、製造業(▲70.0)は8期ぶりに改善し、非製造業(▲62.2)は2期連続で改善した。

<景況感D Iの推移>

	当 期 (R2.10-12)	前 期 (R2.7-9)	前年同期 (R1.10-12)
全 体	▲65.6	▲73.0	▲42.6
製 造 業	▲70.0	▲83.4	▲47.7
非製造業	▲62.2	▲64.8	▲38.7

先行きについては、「良い方向に向かう」とみる企業は5.2%(前回調査(R2.7-9月)比+0.1)、「悪い方向に向かう」とみる企業は43.6%(前回調査比▲1.6)だった。

先行きD Iは▲38.3(前回調査比+1.7)と、2期連続で改善した。

<来期の見通し>

	良い方向に向かう	悪い方向に向かう	先行きD I (R3.1-3)
全 体	5.2%	43.6%	▲38.3
製 造 業	6.7%	41.1%	▲34.5
非製造業	4.2%	45.5%	▲41.3

2 売上げについて

売上げD Iは▲25.7（前期比+20.5）となり、2期連続で改善した。来期は悪化する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期連続で改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の売上げD Iより悪化する見通しである。

〈売上げD Iの推移〉

	当 期 (R2. 10-12)	前 期 (R2. 7-9)	前年同期 (R1. 10-12)	来期見通し (R3. 1-3)
全 体	▲25.7	▲46.3	▲17.9	▲41.4
製 造 業	▲15.8	▲51.4	▲20.3	▲36.3
非製造業	▲33.3	▲42.2	▲16.1	▲45.2

3 資金繰りについて

資金繰りD Iは▲24.0（前期比+10.9）となり、2期連続で改善した。来期は悪化する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期連続で改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の資金繰りD Iより悪化する見通しである。

〈資金繰りD Iの推移〉

	当 期 (R2. 10-12)	前 期 (R2. 7-9)	前年同期 (R1. 10-12)	来期見通し (R3. 1-3)
全 体	▲24.0	▲34.9	▲18.3	▲38.0
製 造 業	▲21.9	▲41.3	▲21.2	▲33.9
非製造業	▲25.7	▲29.8	▲16.1	▲41.1

4 採算について

採算D Iは▲33.6（前期比+15.5）となり、2期連続で改善した。来期は悪化する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期連続で改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の採算D Iより悪化する見通しである。

〈採算D Iの推移〉

	当 期 (R2. 10-12)	前 期 (R2. 7-9)	前年同期 (R1. 10-12)	来期見通し (R3. 1-3)
全 体	▲33.6	▲49.1	▲27.9	▲41.9
製 造 業	▲26.6	▲53.4	▲31.1	▲35.7
非製造業	▲39.1	▲45.7	▲25.5	▲46.7

5 設備投資について

実施率は19.8%となり、2期連続で増加した。来期は減少する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期連続で増加した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の実施率より減少する見通しである。

〈設備投資の実施率〉

	当 期 (R2.10-12)	前 期 (R2.7-9)	前年同期 (R1.10-12)	来期見通し (R3.1-3)
全 体	19.8%	19.4%	23.0%	16.5%
製 造 業	21.4%	21.2%	25.5%	19.3%
非製造業	18.5%	18.0%	21.1%	14.4%

6 ヒアリング調査の概況（詳しくはP14以降をご覧ください）

【現在の景況感】

- （一般機械器具）・製造業の設備投資が少なく、産業用機械や生産用機械関連の受注が減少している。
- （輸送用機械器具）・乗用車関連受注は、納品先自動車メーカーの状況で受注環境に大きく違いが出ている。
- （金属製品）・通信設備や半導体関連の受注は活発である。
- （プラスチック製品）・不況ではあるが上半期よりは持ち直しの動きがみられる。
- （食料品製造）・コンビニやスーパー等の流通系向けの景況感は良好である。
- （百貨店）・コロナ禍による客数減少もあり、厳しい状態が続いている。
- （スーパー）・食品スーパーは単籠もり需要の取り込みで好調を維持している。
- （情報サービス業）・業績悪化により、システム関連の設備投資が先延ばしになり不況である。

【売上げ・採算】

- （一般機械器具）・生産用機械関連の受注が減少しており、売上げが減少した。
- （電気機械器具）・5G関連の受注が大幅に増加したことから、売上高は5～10%程度増加した。
- （印刷業）・例年受注していた案件は入ってきているが、全体的に量が減少している。
- （百貨店）・衣料品は厳しいが、食料品やリビング・家庭用品は好調である。
- （情報サービス業）・大手企業からの受注が減っている。
- （旅行業）・売上げが激減しており、コスト削減を行っているものの、採算性は悪化している。
- （建設業）・売上げが減少したものの、資材価格の下落もあり、採算性は前年水準と変わらない。

【今後の見通し】

- （輸送用機械器具）・回復傾向が継続し、良い方向に向かうとみている。
- （電気機械器具）・5G関連の受注は増加するとみているが、既存製品の受注の戻りは不透明である。
- （金属製品）・半導体関連の受注は引き続き堅調であるとみている。
- （食料品製造）・感染症の動向次第であるが、スーパー向け需要は落ちないとみている。
- （商店街）・ワクチンや特効薬もない状況では不透明感が強く、景況感は読めない。
- （建設業）・公共工事も民間工事もあり状況は変わらないとみている。